



**岡本 祐幸 教授**  
物質理学専攻物理系

本年4月1日付けで理学研究科物質理学専攻（物理系）の生物物理理論の研究室に、岡崎市の分子科学研究所から転任してきました、岡本祐幸（おかもとゆうこう）です。専門はタンパク質の折り畳みなど生体系の計算機シミュレーションです。この分野は物理、化学、生物の境界領域に分類され、いろいろなバックグラウンドの人が研究しています。私自身も20年近く前に素粒子論の分野から参入しました。これら3分野の研究活動における名古屋大学の（論文1報当たりの被引用回数による）全国ランキングは、以下に述べますように、大健闘しています。まず、3分野とも10位以内にランクされている大学は東大と名大の2大学のみです。また、3分野の順位の和（よって、小さい程上位になる）は、東大（11）、名大（13）、京大（19）、阪大（26）、東北大（28）の順位付けとなります。つまり、名大は僅差で東大に次いで全国第2位で、3位以下に大きく水を開けています。具体的には、物理学が8位（1位が高エネルギー加速器研究機構、東大は4位、京大は11位）、化学が3位（1位が分子科学研究所、2位が東大、4位が京大）、生物学（動物学、植物学）が2位（1位が岡崎の基礎生物学研究所、3位が阪大、4位が京大、5位が東大）となっています。これからも名古屋大学が基礎研究及び学生の指導で優れた立場を保てるよう、私自身微力を尽くす所存です。

ところで、大学には「自分よりっぱな大学で勉学に励んでいるのだ」というように、学生が誇りを持てるようなシンボリック建造物が必要です。私が4月に着任して以来残念に思っているのは、名古屋大学にはこのようなシンボルに値する建物が無いことです。何とか今ある時計台をりっぱなものに改築して、通学する学生が毎日眺めて、学問への闘志を燃やせるようにして頂きたいと切望していますが、それには、同窓会の皆様のご援助もお願いしなければならないと思っております。どうぞ宜しくお願いします。